

ユーロ圏金融政策（2022年12月）

ECBが超タカ派へ転換

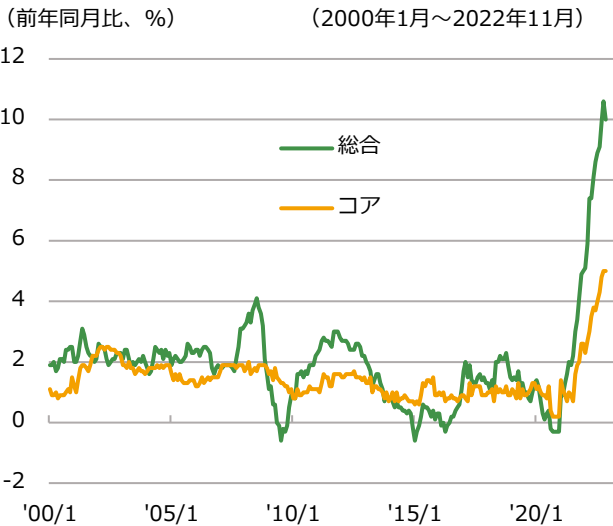
2022年12月16日

利上げ幅は縮小も、利上げ到達点は遥かに高い水準を明示

ECB（欧州中央銀行）は12月15日（現地）の理事会で0.5%ポイントの利上げを決定し、中銀預金金利（銀行がECBに資金を預け入れる際の金利）を2%としました。利上げ幅を最近2回の0.75%ポイントから縮小したのは市場予想通りですが、金融政策姿勢は予想外に超タカ派へと転じました。ECBの突然の方向転換に対する市場の衝撃は大きく、株・債券とも大幅安に見舞われるなど、欧州売りの様相を呈しました。

ECBは声明文に「2%のインフレ目標の達成を確実にするために、金利は十分に引き締めの水準へ向けて安定したペースで大幅に上昇し、その水準で一定期間留まる必要がある」と記しました。ラガルド総裁は記者会見でこの点を何度も強調しただけでなく、「大幅に」とは各0.5%ポイントと具体的に答え、利上げの道筋は長く、中銀預金金利の到達点は市場が現在織り込む約3%では不十分とまで述べました。前回10月の理事会では「3回連続の利上げで金融緩和の巻き戻しはかなり進んだ」とハト派的な姿勢を示していただけに、明らかな方向転換です。その背景として、ECBは9月時点と比較して、2022、2023、2024年のインフレ率をそれぞれ8.1%→8.4%、5.5%→6.3%、2.3%→3.4%へ何れも顕著に上方修正しています。もっとも、11月の消費者物価指数は前年同月比10.0%と、10月の10.6%から鈍化しており、インフレにはピークアウトの兆しが窺えますし、エネルギー価格のインフレへの寄与度は時間の経過で着実に低下していくため、必ずしもECBの見通し通りに展開するとは限りません。

ユーロ圏の消費者物価指数



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
(出所) リフィニティブ

ユーロ圏の金利と為替



※中銀預金金利は決定日ベース
(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはいくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。